# ～おおいしだのとんとむがすあったけど⑲～

## おへどの稲荷（いなり） その一

徳川時代、天下の実権が、家康（いえやす）に移った頃の話である。水戸に佐竹義宣（さたけよしのぶ）という殿様がいた。家康に従わないので、とうとう秋田に国替（くにが）え（大名の領地を移しかえること）を命じられてしまった。

佐竹の殿様が、秋田に向かう途中、一匹の白狐（しろぎつね）が苦しんでいるのを見つけた。家来たちがたかが狐だと思い殺そうとした時、

「病気で苦しんでいるものは、狐と言えどもかわいそうだ。手当をしてやれ。」

と佐竹の殿様が言い、それで白狐は助けられた。そこで、白狐は、

「お殿様、どうか恩返しをさせてください。」

と願い出た。お殿様は、この狐はただの狐ではない気がして、

「しからば、予の家来となり、江戸と秋田の間の間者（かんじゃ）（こっそりと敵側の情報を探って味方に通報する人）となり、江戸の様子を報告してくれ。」

と、言った。

そこで、白狐は、若者に化けて、名を与次郎（よじろう）と名のって、江戸と秋田の間を恩返しのため、毎日走り続けた。狐なので、一夜に、百里（ひゃくり）（四百キロ）の道を走るのだ。

与次郎がいつも泊まる宿としたのが、東根の六田（ろくだ）の宿であった。この宿にはおはなという器量よしで気立てのいい娘がいた。与次郎は、この娘を好きになってしまった。また、おはなも与次郎を好きになり気持ちを打ち明けた。与次郎は、

「私は、人間ではなく白狐である。秋田の殿様への恩返しに間者となっているのだ。気持ちは有難いが応ずることができない。許してほしい。」

と返事した。それでも、おはなはあきらめられず、与次郎の来るのを待ち、大切にもてなしていた。

その頃、徳川幕府では、各地に隠密（おんみつ）を送って、その様子を報告させていた。その隠密たちは、与次郎の行動に目をつけ、

「与次郎の足の速いのは、ただ者ではない。」

と、さぐり始め、とうとう、白狐で、秋田の佐竹の間者ということが分かってしまった。

徳川の隠密たちが、六田の宿に泊まって、与次郎を殺す相談を始めた。狐を殺すには、狐の好物（こうぶつ）である鼠（ねずみ）の天ぷらに毒を入れて食べさせようと相談しているのを、おはなは聞いてしまった。早く与次郎に知らせなければと思っているうちに、与次郎が宿に着いてしまった。おはなは、そっと与次郎を呼んで、

「今夜は、どんなことがあっても天ぷらを食べてはだめですよ。」と何回も言った。

案の定、隠密たちは、夜更けに裏の畑で毒入りの鼠の天ぷらを揚げ始めた。与次郎は、その匂いにさそわれて裏の畑に出ていった。おはなの話がちらついたが、どうしてもがまんできず、毒入りの鼠の天ぷらを食べてしまった。その後、隠密は、与次郎の死んだことを確かめて江戸へ引き上げていった。

朝、おはなが、裏の畑に行ってみたら、白狐が死んでいた。おはなは、そっと白狐を土に埋め、冥福（めいふく）を祈った。

秋田の殿様は、与次郎のことを聞き、六田に与次郎稲荷として、お堂を建てた。

【お話は次回につづきます】

○出典『大石田のとんとむがす』（大石田とんとむがすの会編集・発行、二〇一九年）

◇編集・発行　大石田町総務課
〒999-4112　山形県北村山郡大石田町緑町1番地　☎0237-35-2111　FAX 0237-35-2118
◇印刷／寒河江印刷㈱

**大石田町公式アカウント開設**

**LINEはじめました**

防災情報などを受け取ることができます。

**友だち登録をお願いします！**

登録方法

右のQRコードを読み取って友だちに追加してください。

大石田町公式LINE

## 防災放送の内容を電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時（夕方6時のメロディ等）放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

**確認ダイヤル：0237-48-8444**

■総務課総務グループ　TEL35-2111（内線218）

## 町の人口　令和３年12月１日現在

| | | |
|---|---|---|
| 世帯数 | 2,271 戸 | （－15） |
| 総人口 | 6,534 人 | （－21） |
| 男 | 3,231 人 | （－6） |
| 女 | 3,303 人 | （－15） |

（11月中の異動）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出生 | 1 人 | 転入 | 7 人 |
| 死亡 | 13 人 | 転出 | 16 人 |

※この数字は外国人数も含めた数字です。